

総合的な3つの視点による取組

2019年度の
取組状況

人・地域社会

環境にやさしいライフスタイルの
実践や地域の環境活動を支援

愛護会などの環境活動団体による環境保全活動への支援や、スポーツチーム等と連携した親しみやすい広報による普及啓発などを進めました。

また、地域で様々な環境活動を積極的に実践する市民、企業、児童・生徒・学生を表彰する横浜環境活動賞を、2019年度は19団体が受賞しました。



荻子田太陽公園愛護会が整備した
バラ園(青葉区)

様々な団体が活動しています(2019年度末時点)

公園愛護会	2,499団体
水辺愛護会	94団体
市民の森愛護会	32団体
ふれあいの樹林愛護会	12団体
森づくり活動団体	30団体
よこはま緑の推進団体	812団体
ハマロードサポーター	534団体

経済

環境分野の取組による市内経済の
活性化と地域の賑わいづくりを推進

上下水道や廃棄物などの分野で横浜市が有するノウハウと市内企業などが有する環境技術を生かして、新興国の課題解決を支援するとともに、市内企業の海外インフラビジネス展開を支援しました。

美しい都市景観や緑豊かな里山などを生かしたイベントの開催などにより、さらなる魅力・賑わいを創出し、環境先進都市・横浜としてのプロモーションを展開しました。



下水道台帳システム整備に向けた
浸水箇所の現地調査(ベトナム国ハノイ市)



ガーデンネックレス横浜(山下公園)

まちづくり

環境と調和・共生した、環境にやさしく
災害に強いまちづくりを推進

横浜都心部コミュニティサイクルの
サイクルポート(神奈川区)



雨水の保水浸透機能を高めて再整備した
今宿東公園(旭区)

鉄道・道路などの交通ネットワークや自転車利用環境の整備等の環境にやさしい交通・物流環境の形成や、計画的な雨水幹線等の整備に加え、自然環境が持つ機能を活用するグリーンインフラの考え方を導入した取組を進めました。

また、東急田園都市線沿線地域など郊外部の4地区では、「持続可能な住宅地推進プロジェクト」によりコンパクトで活力あるまちづくりを進めました。

気になる!
プラスチック
問題

プラスチックによる海洋汚染や焼却処理による温室効果ガスの排出が、世界的な問題となっています。この問題の解決に向けて、世界各国で連携した取組が進みつつあり、横浜市もアクションプログラムを策定してオール横浜で取組を進めています。

私たち一人ひとりにできること

家庭から市民1人が1年間で出す
プラスチックごみ量はこれくらい!

×約30kg

分別された プラスチック製 容器包装	13.0kg
燃やすごみに 含まれる プラスチック製 容器包装	7.5kg
上記以外の プラスチック	10.7kg

プラスチックごみ

市内のプラスチック排出量(分別されたプラスチック製容器包装+燃やすごみに含まれるプラスチック推計量等)を市の人口で除して算出(2019年度)。数字は概算値です。



×約140本



横浜市
環境行動キャラクター
「エコぼん」

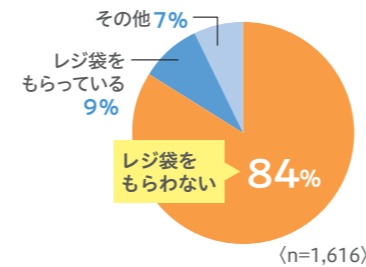
500mlペットボトル

市内のペットボトル排出量(分別されたペットボトル+燃やすごみに含まれるペットボトル推計量)を市の人口及びペットボトル1本あたりの重さ(約25.6g/本)で除して算出(2019年度)。数字は概算値です。

3R(リデュース・リユース・リサイクル)の中で
最も環境にやさしいリデュースが大切です。
ポイ捨てをしないことや分別を徹底することはもとより、
使い捨てとなるプラスチックの削減に取り組みませんか。

詰め替え
容器を使う使い捨て
プラを
もらわないマイバッグを
使うあなたも持っていますか?
エコバッグ

2020年7月からプラスチック製レジ袋の有料化が始まりました。8月に実施した市民意識調査では、「レジ袋をもらわない」と回答した人は、84%でした。



SDGsの達成にも貢献

SDGsは、持続可能な開発の実現を目指し、世界で立てられた17個の目標です。プラスチック問題にも深いつながりがあります。

プラスチック問題と
関係の深いゴール環境管理計画や年次報告書の
詳しい情報はウェブページで!

横浜市環境管理計画



環境管理計画や環境管理計画年次報告書の冊子は、市庁舎市民情報センター、各区役所広報相談係、各市立図書館でもご覧いただけます。

横浜市環境創造局政策課

〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10
TEL 045-671-4102 〇〇年〇月発行

横浜の環境

2019年度の取組

横浜市環境管理計画年次報告書(概要版)



新港ふ頭客船ターミナル(ハンマーヘッド)



フォレストアドベンチャー



帷子川の川づくり



ガーデンネックレス横浜

横浜市環境管理計画は環境分野の総合計画です。この計画では「人・地域社会」「経済」「まちづくり」の総合的な3つの視点を持ち、地球温暖化対策や生物多様性、水とみどりなど様々な環境の取組を進めています。

年次報告書では、環境管理計画に基づいて実施した2019年度の多彩な取組をまとめており、このパンフレットではその取組の一部を紹介しています。今後も、SDGsの達成に貢献していくSDGs未来都市として、様々な主体と連携しながら取組を進めます。

1

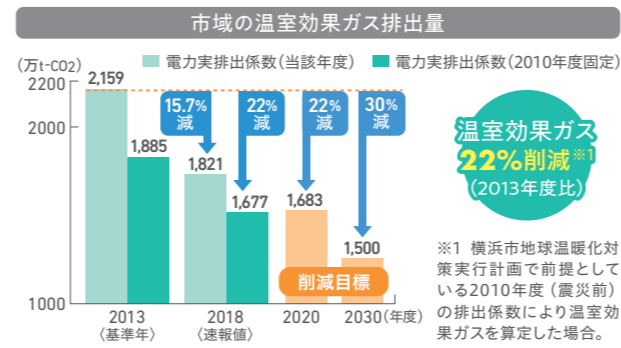
地球温暖化対策

化石燃料に過度に依存しないライフスタイルへの転換

重点施策

2050年までの温室効果ガス実質排出ゼロ(脱炭素化)の実現に向けて、水素で走る燃料電池自動車(FCV)の導入補助や、公民連携による持続可能なライフスタイルの発信、蓄電池を活用した仮想発電所の構築など様々な取組を進めました。

2018年度の市域の温室効果ガスの排出量は1,677万t-CO₂と、2013年度と比較して22%減少しました。



燃料電池自動車(FCV)



見学施設を併設した水素ステーション(港北区)



SDGsに貢献する暮らしが体験できるモデルハウス(港北区)

市内のFCV登録台数 150台

ライフスタイルの発信

3

環境教育・学習

持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え、具体的な行動を実践する人づくり

環境を学ぶ場や、環境に市民が関わる場が広がるよう、環境教育出前講座の実施、「下水道展'19 横浜」への出展、学校教育における持続可能な社会の創り手の育成(ESD)など、様々な主体との協働による取組を展開しました。



下水道展の子ども向け工作コーナー



マイクロプラスチックの観察

環境教育出前講座参加者 8,409人



企業・学校が参加した荒井沢市民の森愛護会の稲刈り(栄区)



ESD児童生徒交流報告会でのワークショップ

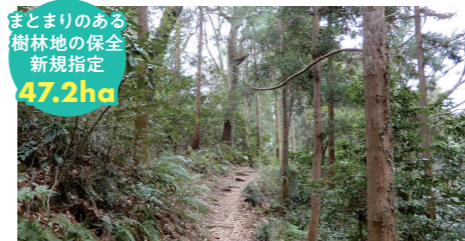
ESDに積極的に取り組む学校数 332校

4

水とみどり

自然の恵みを享受できる環境の保全・再生・創造

土地所有者の負担を軽減する緑地保全制度などによるまとまりのある樹林地の保全や、市民と連携した樹林地の維持管理・活用を推進しました。また、市民協働による川づくりのほか、グリーンインフラ(自然環境が持つ多様な機能)を活用した取組などによる水循環の再生を進めました。



まとまりのある樹林地の保全新規指定 47.2ha
円海山近郊緑地特別保全地区(金沢区)



帷子川での市民協働による川づくり(旭区)

6

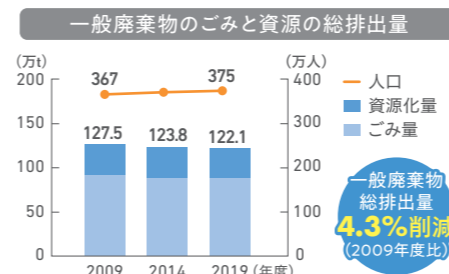
資源循環

循環型社会の構築

3Rを推進するため、食品ロスやプラスチックごみの削減の普及啓発、リユース食器の活用などを進めました。2019年度の一般廃棄物の総排出量は122.1万tと、2009年度と比較して4.3%減少しました。



横浜駅西口における美化活動



2

生物多様性

身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし

重点施策

生き物の生息・生育環境の保全に向けて、樹林地や農地の保全、企業と連携した豊かな海づくりにつながる取組を進めました。また、生物多様性への理解を深める機会として、動物園などで環境教育プログラムを実施しました。



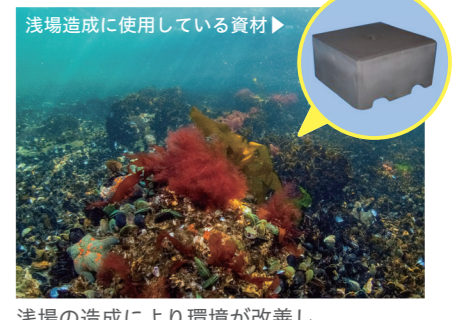
十日市場農業専用地区(緑区)



市民による森づくり活動(金沢区)



動物園等での環境教育プログラム実施 843件
金沢動物園での環境教育



浅場造成に使用している資材
浅場の造成により環境が改善し、生き物が増えた山下公園前の海(中区)

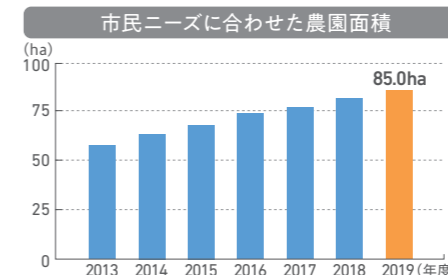
5

都市農業

活力ある都市農業を未来へ

都市農業の担い手の育成や、貸借による農地の利用促進など持続できる都市農業を目指した取組を進めました。

また、多様な市民ニーズに合わせた農園の開設や、横浜の農を学び楽しむ取組、市民・企業等と連携した地産地消などの取組を進めました。



農ある横浜めぐりツアーでのサツマイモ収穫体験(泉区)

7

生活環境

安全で安心・快適な生活環境の保全

環境法令に基づく事業者への規制指導や下水道の高度処理化など、環境負荷の低減に取り組みました。市内の大気や河川・海の水質などの環境の状況は長期的に見て改善傾向となっています。



事業所排水の立入調査

